テニス

はじめに

本県では 2017 年のしあわせ元気福井国体以来の全国規模の大会となった。大会期間中は、練習日も含め、連日３５度を超える真夏日に見舞われ、試合は順調に進行したが、選手・大会運営供、コンディショニングに苦労した大会となった。大会実行委員会、(公財）日本テニス協会等関係各位のご指導、ご支援のほか、本協会の競技役員・スタッフの尽力により、無事日程通り終了した。

大会の事前準備について

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020 年の愛媛大会、2021 年の岡山大会が中止となり、3 年ぶりに岩手大会が開催、今回開催された福井大会からは日韓交流が 4 年ぶりに再開されたが、以前の状況がわからず、マニュアルを参考に、ほぼ手探りの状態で開催準備に着手した。

開催 1 年前の 2022 年 4 月から日本スポーツマスターズ 2023 福井大会実行委員会主催の会議がスタート。その後、(公財）日本スポーツ協会、日本テニス協会、福井県テニス協会の会議を順次開催して事前準備を進めた。

本協会の主な業務としては、審判員等競技役員の確保、要項の作成、広告募集・原稿作成、競技会運営交付金申請などの大会関係書類の作成、大会会場設備・備品リスト等の確認・変更、テント・練習コートの各県への割り振り、試合関係では OP 作成、試合用グッズの作成・準備、掲示物作成、などであった。

大会期間中の競技運営状況

●9 月 15 日（大会前日・晴）公式練習

都道府県ごとに 16 面のコートを割当。

事前の岩手県から情報を参考に、午前 10 時～13 時までを、フリーとし、各県の練習は午後 13 時～17 時 30 分まで、3 周りで各県練習コートを配分した。

また、総合開会式レセプションに参加する県は、最初の練習 13 時～14 時 30 分に入れるよう配慮した。

●9 月 16 日（第 1 日・晴）開始式・予選リーグ

予定通り、9 時 25 分から開始式、9 時 40 分から試合をスタートした。開始式は、初戦の対戦選手はコート内に待機した状態で始まり、挨拶を、大会委員長（公財）日本テニス協会　土橋登志久、開始宣言は大会副会長福井県テニス協会会長　安間保行が行い、直ちに試合開始となった。

また、今回から大会参加の韓国チームの紹介・ペナント交換なども開始式にて行った。

ｼﾝｸﾞﾙｽ 1・2 回戦、ﾀﾞﾌﾞﾙｽ 1 回戦、予定通り終了。

●9 月 17 日（第 2 日・晴）予選リーグ

ｼﾝｸﾞﾙｽ 3 回戦、ﾀﾞﾌﾞﾙｽ 1・2 回戦、予定通り終了。

●9 月 18 日（第 3 日・晴）本戦ﾄｰﾅﾒﾝﾄ

ｼﾝｸﾞﾙｽ・ﾀﾞﾌﾞﾙｽ 1 回戦・QF、予定通り終了。

●9 月 26 日（第 4 日・晴）本戦ﾄｰﾅﾒﾝﾄ・表彰式

ｼﾝｸﾞﾙｽ・ﾀﾞﾌﾞﾙｽ SF・F、予定通り終了。

表彰式は、順位決定戦と、決勝では、試合終了時間に差ができたため、5 位、3 位と決勝対戦者（1･2 位）に分けて表彰式を実施し、選手の便宜を図った。

団体表彰については、各県の表彰対象者が多数になるので、入賞県には、賞状とメダルは後日郵送となった。

大会開催にあたり顧慮したこと

・組織は大きく、大会運営対応と韓国選手団対応（5 名の専門委員）に別けて準備を進めた。

・大会運営は、事務局を中心に、①総務・庶務②進行③審判④記録に別け、準備にあたった。

・リモートによる会議は、簡単に開催することができ、問題点があれば都度開催できるので有効であった。

・以前の大会に参加した選手から、テントが県ごとに分

けてないので使いづらいとの指摘があった。今回は、各県参加人数を調査し、人数によりテント配分を行った。各テントとも有効に使われていた。

・テント割は主催県で行うので、テントの県名の名札作成（ﾗﾐﾈｰﾄ）は、福井県で準備した。韓国チームには 2 張のテントを割り振った。

・種目ごとに色別にし、わかりやすいように配慮した。（①得点版用選手名名札②スコアシート③記録掲示板種目名名札等）

・予選は、リーグなので、予選ドロー表が完成したら、スコアシートも印刷できるように、エクセルを改良した。

・抽選会はリモートにて日本テニス協会が行い、開催県は補助的な立場で、立ち会った。

ドロー受付・変更受付は日本テニス協会担当者に窓口を絞り、棄権者が発生する毎に、日本テニス協会担当者と協議し補欠補充者を決定した。

・福井県テニス協会ホームページに、マスターズのサイトを作成し、必要な情報は、タイムリーに選手・委員等に連絡できるよう配慮した。日本テニス協会のサイトとお互いにリンクし、運営を行った。ホームページに掲載のデータは、各県事務局宛に、メールにて重ねて連絡した。

・準備していただいたレーザープリンターと、福井県テニス協会で用意した複数台のパソコンとの接続がうまくゆかず、大変であった。最近では無線 LAN 等があるのだから、パソコン同士がデーター共有できるようなシステム構築を考えてほしい。

・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ広告掲載について、日本スポーツ協会が示す規定内容が簡単すぎ、福井県との解釈にずれが生じた。広告を募集し、日本スポーツ協会に入稿したが、掲載の可否の返事は 1 か月後になり、掲載不可の判断をされた企業には大変申し訳ない思いをさせた。広告募集を行った福井県テニス協会は、該当企業に理由を説明し丁重にお断りしたが、本当に気まずい思いをした。

① 広告規定を、掲載不可等の混乱が起きないように細かく記載をしてほしい。

② 広告原稿を入稿したら、出来るだけ早く掲載可否の判断をし、開催県に報告してほしい。

次回（長崎）大会への課題

・日本スポーツ協会、日本テニス協会、福井県スポーツ協会、県テニス協会など、競技開催に関係する部署がたくさんあり、開催県のテニス協会が行わなければならない仕事内容の把握や・使える予算内容（日本スポーツ協会・開催県補助等）を理解するのに苦労した。

・国体は、開催県が主体となって全体の実務・計画を行い、旅費・日当など開催県の行政が準備したが、マスターズは、日本スポーツ協会主催となる。日本テニス協会が主管、開催県が補助、開催県競技団体が実務を行う。競技開催に係わる施設準備・会場設営（テント・韓国団控え室・会場バーナー設置・大きな備品（ﾚｰｻﾞｰﾌﾟﾘﾝﾀｰ・ﾄﾗﾝｼｰﾊﾞｰ・wi-fi の設置等））は日本スポーツ協会が行い、その他の準備は協会で準備することになる。

また、旅費・日当・宿泊費等の個人書類の計算・精算も開催県のテニス協会がすべて行うので大変であった。

・日本スポーツ協会、日本テニス協会、福井県スポーツ協会とは、二回ほど打合せの機会があるが、限られた時間の中で行われるので、わからないところは、都度日本テニス協会を通して問い合わせて確認する必要があり、担当者とは緊密に連絡を取る必要がある。

・大会要項・組み合わせ・注意事項・交通手段・（選手の申込や変更、補欠・補充の取扱など）・韓国選手団とのプレゼント交換等の各都道府県協会への周知徹底が必要。

・選手待機場所（テント）の確保（各県への配分）、練習コート割・時間などの検討・作成。

・選手からの問い合わせの連絡先は一本化する。参加申込・ドロー作成・棄権受付等は日本テニス協会、その他（練習コート割・大会運営・天候などによる変更など）は、大会ﾃﾞｨﾚｸﾀｰとﾚﾌｪﾘｰ（携帯とメール）に絞って対応。

・韓国選手団への対応は、来日日から滞在最終日まで主管テニス協会がサポートするので、公式練習・練習試合・協会との交流会・観光設定・案内等の日程作成や調整など、十分韓国選手団と意思疎通が必要。通訳がベテランでないと大変である。

福井県テニス協会　理事長　矢部　清隆